

大学生が“住民”になる時間

学生と地域で考えるまちづくり会 代表 まつ お りょう じ 松尾 亮二

1 学生と地域を結ぶ

幌北地区では、2007年5月から、『学生と地域で考えるまちづくり会』という組織を立ち上げ、学生の視点をプラスしたまちづくり事業を始めました。現状として、幌北連合町内会という一番住民に密着している組織には、若い世代の顔ぶれがほとんどありません。また、僕の地区にはたくさんの一人暮らしの学生がいます。しかし、これらの学生はこの地区にいる人・もの・雰囲気というものに対して無頓着な傾向にあります。そして、ゴミや自転車などのマナーの悪い学生もたくさんいて、地域の一部の方々が大変な思いをしています。「住んでいるけど、つながりなんて何も無い…」10年後、50年後も、このままでいいのでしょうか？一人一人が何かに気づけば、もっと素敵な絵を描けるのではないのでしょうか？

僕たちは、“住民”として学生が地域に参画し、みんなが住みよい「幌北流のまちづくり」を目指して、地域の様々な魅力を再発見できるような事業に取り組んでいます。そして、少しずつではありますが、学生と大人の方が住民同士の協働の大切さを感じつつあるように思います。

2 始まりはふとした事から

そもそも、始めからこの会が存在したわけではありません。僕の所属した北大のYOSAKOIサークル『北海道大学“縁”』の代表の住むアパートの大家さんが、幌北の町内会役員の方だったのです。そして、

「(以前から参加させていただいている)鉄西のお祭りだけでなく、幌北にも夏祭りがあるから、学生さんで手伝ってくれないか？」との声が掛かりました。お祭りに参加することになった『北海道大学“縁”』ですが、まちづくりセンターの高橋所長はじめ、様々な地域の方とかかわるうちに、世代間で何かを一緒にやる楽しみを感じ、「もっとほかのこともできないか？」と『学生と地域で考えるまちづくり会』を発足させました。初めは少ないメンバーでしたが、一発目の事業、「『幌北ふるさと夏祭り』でのアンケート調査と地域の写真絵はがき販売」で新しい存在感を発揮したあとから、学生も地域の方も少しずつ協力して下さるようになり、今では当初の2倍近くのメンバーで活動しています。

3 活動の振り返り

～イベント～

8月・幌北ふるさと夏祭りアンケート調査@幌北小学校

子どもから大人まで200人以上のお客さんの声を回収、満足度や祭りへの意見など、新しい意見も見つけられた。2008年の夏祭りに生かす。

- ・同祭りにて「幌北の絵はがき」販売
モノクロの古い写真や北大の写真が大人気。写真は会のメンバーで中学生のころから写真を撮っていたという永野拓也さん(77)の作品など。「懐かしい」

と中高年を中心に好評だった。



11月・地域に住む留学生との交流事業①

おにぎり作りなどを通じて、まちづくりセンターにて留学生と交流。お互いについてもっと知り合いたいという願いが実現。「これからもこんな集まりがあったらいい」と留学生も楽しげだった。

12月・地域に住む留学生との交流事業②

11月につながりのできたイラン人の北大研究員の方にイランの生活をプレゼンしてもらう会をまちづくりセンターにて開催。知らなかった異国の文化に触れ、大人からも質問が連発、刺激的な会となった。

幌北の絵はがき



昭和42年 北12条 創成川



昭和29年 第9回 国体開催記念



・幌北小学校の4年生とのワークショップ授業

幌北小学校の4年生と、地域の大学生、町内会の方々に「幌北」の好きなところや、改善点、将来あってほしい街の様子などについてワークショップを行った。「心を開けるお兄さん」としての大学生との対話によって、素直な「住民としての小学生」の意見を聞くことができ、先生方からも好評だった。

2008年2月・幌北Mini雪祭り



まちづくりセンター前の道路に雪だるまやスノーキャンドルを並べて飾る事業を地域住民や大学生、留学生

も参加して盛大に行った。予算上は温かい飲み物のみを用意する予定だったが、地域の圧倒的な持ち寄りパワーでお汁粉やスープ、お菓子やストーブまで用意され改めて地域の力を実感する会となった。

～通年事業／ものづくり～

・幌北地域教本『ほらほら幌北』歴史編を発行

地域に長く住んでいる方々20名に幌北の昔の町並みについて語っていただき、北大通りに走っていった市電の話や個人牧場の話などをまとめた。多くの方々の記憶を形に残した永久保存版で、郷土の資料として幌北小学校全校生にはプレゼントをした。

・幌北地区HPの開設・運営

幌北地区の魅力や、人、安全などの情報を網羅した地域のHPを作成し、学生のマンパワーでさまざまな調査を行い、今後もコンテンツを増やしていく予定。このHPをきっかけに、普段地域とつながりのない学生や単身世帯の方々も地域のことを良く知り、好きになってもらうことで、どんどん幌北のまちを安全で住みよい街にしていきたい。<http://horokita.net/>





4 これまでも、これからも。

これまでまったくといっていいほど無かった学生と地域との交流や事業が、1年弱の間に何度も実現しました。この活動はこれからも続いていきます。そもそも学生はせいぜい大学生活の4年間か6年間程度しか幌北地区にはいられないのですが、それでも住民として、マナーを守り、地区を知って、地域のイベントなどに参加するということはとても大切に素敵なことだと実感しています。幌北地区にはそんな学生たちを応援して下さる町内会の方々がたくさんいらっしゃる。これまでの活動のすべては、学生だけが頑張っても、地域の方々だけが頑張っても、実現し得ないものだったと思います。お互いができることや得意なことを共有し合い、少しずつ頑張っ、「適材適所」で力を発揮できた成果かと思ひます。「まちづくり」はイベントや準備などで大変なこともあるかもしれませんが、それ以上に「周りと繋がっていく、声を聞く楽しさ」が秘められているのではないのでしょうか。

地域で実際に活動してみると、幌北地区は魅力がたくさんあることに気付かされます。それは、他の

地区にももちろん言えることなのだろうと思いますが、やはり自分の地区に自信を持てるということは素敵ですね。2008年度以降は、今のメンバーに加え、新たに北大や藤女子大を中心にした他の大学生も交えて、もっと学生と大人の方が交わるようなまちづくりが行える事業を展開していきたいと思っています。少しずつではありますが、学生が“住民”として活躍する場面を増やしていくことがこれからの目標ですし、幌北地区の新たな自慢が「学生だ！」といわれるような地域にしていければと思います。まだまだ結成1年目、これからもパワフルに頑張っていきます。

最後になりましたが、これまで学生と地域で考えるまちづくり会を支えてくださった会のメンバーはじめ、市職員、幌北小学校の先生・生徒の皆さん、そして地区住民をはじめその他すべての方々に心から感謝をいたします。また、これからかかわるすべての皆さま、学生を、幌北地区を、よろしくお願ひします!!